

令和4年度生野区区政会議(第2回こどもの未来部会)  
 主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

参考資料 1

開催日:令和4年10月28日(金)  
 場所:生野区役所6階 604・605会議室

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>企業と小中学生、障がいのある方のNPOも生野区は多いと思う。こういう人たちと本気でコラボして商品を開発して売れるものをつくり、他の地域にも売り込んでいかないといけないのではと思うし、区役所が頑張してほしい。</p>	<p>10月28日報道発表の「IKUNO×ものづくり×ICT 次世代の職業体験プログラム」において、株式会社ダイヤのご協力の元、桃谷中学校生のキャリア教育など学校支援を推進してきたところです。同様に企業とNPO、学生間のマッチングについては今後とも、様々な手法を検討し、推進してまいります。</p>
<p>子育てしやすいことのアピールで、区内で自分たちのイベントをどのように知らせていくかが課題にある。区内のこともだけでなく、地域のだんじりや夏まつり、秋まつりなど生野区のイベントを区外にアピールができる媒体は何かないのか。</p>	<p>区の広報活動として、広報いくのをはじめ、twitterやFacebookなどを活用していますが、タイムリーな話題を発信する場合には、官民連携で立ち上げた「いくのぐらし.com」というサイトもあることから、様々な情報媒体を活用して、生野区のイベント情報について、広くお届けできるように工夫を凝らしてまいります。</p>
<p>住んでいる人に生野区の魅力の発信が必要と思った。生野区の魅力をPRすると来てくれるが、住まない。住むことに対する直接的な補助はあった方がいいと思う。コリアタウンに来る人に、空き家等を活用して、お試しで住んでもらい、生野の魅力を知ってもらいたいなことはできないのか。</p>	<p>生野区に住んでいる方のまちへの愛着が高まるように、そして外部の方に生野区のまちに住んでみたいと思ってもらえるように、区役所としてもまちの魅力向上に向けた取組を続けるとともに、区内外にしっかり伝えてまいります。また、利用可能な空き家等を地域資源として捉え、まちづくりの一環として地域活性化に取り組み、まちの魅力向上等に繋げる必要があると考えております。空き家の利活用として、オーナーと活用希望者とのマッチングについては民間事業者と連携し、所有者へアプローチを行い、具体的なニーズに対応しながら空き家の活用を促すなど、様々な手法をもって利活用の促進を進めてまいります。</p>
<p>空き家がコインパーキングに代わってる。空き家を活用し企業の創業や起業につなげないと、子育て世代を呼び込んでいくことに繋がっていかないかと思う。</p>	<p>空き家を放置していると、いわゆる「特定空き家」になることから、利用可能な空き家等を地域資源として捉え、まちづくりの一環として地域活性化に取り組み、まちの魅力向上等に繋げる必要があると考えており、様々な関係機関や民間事業者と連携し、空き家の活用を促してまいります。</p>
<p>生野区の魅力を他区で宣伝してはどうかと思う。大阪市で人気の区の魅力の理由を分析して、生野区の魅力とは何か考えたい。</p>	<p>今後、全国的にも人口減少が見込まれる中ではありますが、生野区のまちの特色が活かされ、住んでいる方やそうでない方にもより愛着をもっていただけるような魅力あるまちになるように取り組んでまいります。</p>
<p>生野区に移り住んでもらいたい、ということだが、他の区が減ってもいいのか、生野区だけよかったらいいのかと思う。取り合いをするよりも、今の人を大切に、結果人が増えましたということの方がいいのではと思う。</p>	<p>今後、全国的にも人口減少が見込まれる中ではありますが、生野区のまちの特色が活かされ、住んでいる方やそうでない方にもより愛着をもっていただけるような魅力あるまちになるように取り組んでまいります。</p>

令和4年度生野区区政会議(第2回くらしの安全・安心部会)

主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日:令和4年10月31日(月)

場所:生野区役所6階 604・605会議室

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>生野中学の2階が避難所になっているが、。現在工事中で避難場所が分からない。どこの教室に避難すればいいのか早く決めてほしい。</p>	<p>避難場所や備蓄物資の配置など具体的な避難運営については地区防災計画などにより地域において決定いただくこととなりますが、区役所としてもそれら地域における防災活動をしっかり支援してまいります。</p>
<p>10/30に防災訓練を実施した。当初区役所から備蓄倉庫にどんなものが入っているか説明を受けたが、久しぶりで忘れていた。頻度を上げて実施する必要があると感じた。</p>	
<p>先日の台風の時に、自主避難者に毛布はあるが、水は各自持参となっていた。雑魚寝となるので、災害の時にどこまで準備してもらえるのか聞きたい。</p>	<p>コロナ禍の前では本市として自主避難を勧奨していましたが、コロナ禍で感染リスクがあることから、大きく方針変換をし、現在は在宅避難や分散避難を推奨していることから、直近の台風では、区役所のみを自主避難施設として開設し、避難者には、毛布と水を配りました。ただし、大きな災害であれば、それぞれの小学校等が避難所になります。また、小学校の備蓄倉庫には、毛布、水、アルファ化米や簡易トイレの備蓄しています。なお、寝床につきましても、生野区では簡易ベッドとして民間事業者と段ボールベッド提供の協定を締結しています。</p>
<p>災害時にホテルなどが使えると聞いている。食料についても食品メーカーと協定しているのかも教えてほしい。</p>	<p>生野区では「ファイブホテルOSAKA」と災害時における連携協定を結んおり、災害時には、空き部屋を避難所として開放いただけます。食料については、市内各所にある備蓄倉庫には水や食糧を備蓄しており、運送業界とも提携を結んで、必要な避難所へ配送されることとなります。また、大阪市全体で食品メーカーと協定を結んでいることから、災害時に飲食料品などの物資の提供いただけることとなっています。</p>
<p>11/23と26に旧生野小学校で防災リーダーの防災訓練が実施される。旧生野小学校は、跡地利用後も防災拠点としてこのような訓練は続けていくのか。</p>	<p>生野区西部地域の学校再編により閉校となった学校跡地も、地域の重要な防災拠点であることには変わりはありません。事業者が学校跡地を活用するにあたり、引き続き避難所としての使用や地域の防災訓練等が実施できるようにすることを条件としています。 なお、生野小学校跡地については、来年度から事業者が管理する予定ですが、今年度は区役所が管理していますので、今回、空いている施設を使用して、生野区全体の防災リーダーの研修を実施するものです。</p>
<p>生野区の特徴(高齢化や多国籍)を踏まえて、多様なニーズに備えて、生野ならではの避難に必要なものなどのイメージをビジョンにしていてもらえたらよいのでは。</p>	<p>やさしい日本語やipadを用いた多言語対応、指差し確認ボードなどを活用した避難所における多言語対応のほか、高齢者等で介護や障がい等により避難に支援が必要な方に関しては個別避難計画の作成をすすめており、引き続き生野区の地域特性を踏まえた支援を行ってまいります。</p>
<p>若い人へ自転車の無灯火・二人乗りへの注意喚起や左側通行の徹底してほしい。</p>	<p>自転車マナー向上に向けて、区内商店街のアーケードに大きな吊り下げ型の啓発のぼりの掲出、自転車啓発のオリジナル動画を作成し、区役所1階ロビーで放映やYouTubeで配信するなど取り組んでいるところですが、引き続き地域や生野警察署等と連携し、啓発に努めてまいります。</p>
<p>大阪は自転車の違反で講習を受ける人が一番多い。違反講習を受けずにすむように大人向けの自転車マナーの講習会や啓発周知が必要。</p>	
<p>高校生や大学生の若い人がイヤホンをしてながらスマホを見ながら自転車に乗っていたり、通学路などをすごいスピードで走っているの、若い人への自転車の乗り方の啓発があればと思う。</p>	

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
歩行者用の信号が無いところも多いので、歩行者信号の設置やカーブミラーの設置をしてほしい。	歩行者用信号やカーブミラーの設置にあたっては様々な条件があるため、設置可能かどうかも含め、具体的な箇所を特定いただければ、可能な限りとりうる安全対策について、警察や本市関係機関とも連携して検討してまいります。
ヤングケアラーやこどもの貧困については家庭の事情がついてくる。単身世帯が増えていく時代背景もあり、学校もなかなか介入できないし地域もかかわれない。民生や行政がかかわってもらえたらと思う。	生野区では、すべてのこどもが笑顔で暮らせるようにみんなで子育てできるまちをめざし令和2年3月に「生野区まちぐるみ子育て宣言」を行いました。 「つながりの中で子育てができるまち」「いろんな団体や企業や個人の力を集めて生野で子育てする家庭を応援するまち」をめざしています。 まわりの人が気づき、声をかけ、手を差し伸べることで、ヤングケアラーが「自分は一人じゃない」「誰かに頼ってもいいんだ」と思えるよう、行政、学校、団体、地域が、それぞれの立場で、それぞれがつながり、関わることで、こどもが安心して暮らせて可能性を伸ばせるまちに向け、取組を進めてまいります。
ヤングケアラーは18歳くらいまでとイメージしやすいが、実際には、働いているが家族の介護をしている。何らかのケアが働く上で必要。制限や制約あるいは進路就職選択への影響も多大であるとも言われている。本人の支援もあるが、事業者の側が理解して受け入れていく環境を進めていくことが必要。貧困ともつながり深い。	一般的に18歳までがヤングケアラー、それ以上を若者ケアラーと称しています。(一般社団法人日本ケアラー連盟HP) 大阪市では国の動きに合わせ、ヤングケアラー支援をすすめているところです。 なお、18歳以上の若者からくらしや就労のご相談があれば、生活の困りごとや経済的なことなどについての悩みに寄り添い、一緒に解決に向けたプランを作成し、安定した生活へのサポートを行っている「くらしの相談窓口いくの」をご案内しております。
貧困の連鎖を断ち切る支援は、こどもに対する支援が中心になっている。親の貧困をどう解消していくのかの議論が見られない。福祉という観点では弱いように思うので、検討してもらえたらと思う。	厚生労働省が自治体に指示している「貧困の連鎖防止の取組」では「生活困窮者の次世代支援」と「高齢や障がい等により受入先がない矯正施設入所退所者の地域社会への復帰支援」の2点を主な目的とし、「生活保護世帯などへの養育相談、学習支援等」と「矯正施設退所者等の地域社会への定着支援」を「課題への対応」として取り組むこととしています。 ご意見を踏まえまして、2つの目的に共通の対象である「生活困窮者等」の支援をビジョン本文中『◆施策展開の方向性① 真に支援が必要な方や課題のあるすべての方への隙間のない支援』で明記しております。
人権尊重・多文化共生で、外国人住民のサポートや環境をよくしていこうとあるが、同時に日本語を母語とする人や日本文化を母文化としている人々が、様々な背景を持っている市民と良い関係性を作っていくためには変化がなければいけない。マジョリティ側もどうかわっていくのが求められる。生野区は、長い歴史の中でマジョリティ側もいろんな背景を持つ人と付き合う力を蓄えていて、非常に進んでいると思っている。文化・母文化を強くして継承していくでであるとか、限界的な部分の課題を掘り出し検証していくと言ったあたりがビジョンで見えてくればと思う	人権尊重・多文化共生において、外国人住民だけでなく、日本語を母語、日本文化を母文化とする大多数の住民の方々への啓発も非常に重要なアプローチであると認識しています。ビジョンに掲げる「異和共生」の考え方のもと、様々な機会をとらえて、周知啓発に取り組んでまいります。
面白いこと、おいしいこと、役に立つこと、ためになることなど、生野区の魅力を役所が個別に発信することは難しいかもしれないが、何とか区の魅力を発信できないだろうかと思う。	生野区のまちの特色を活かした魅力向上は区役所としても重要な視点・アプローチと考えています。 また、そのためには、行政だけでなく地域住民の方々をはじめ、企業や専門家の方々などさまざまな力が必要となります。 公民地域それぞれの持つ強みを活かして大きな力となることで、生野区のまちを効果的にプロモーションし、まちのブランディングへとつながっていきます。 2025年の大阪関西万博の開催を契機に、地域経済の活性化を区政の柱のひとつとして、まちの魅力とにぎわいの創出に取り組んでまいります。

令和4年度生野区区政会議(第2回まちの未来部会)  
 いただいた主なご意見等(要約)と区の考え方、対応  
 開催日:令和4年11月1日(火)  
 場所:生野区役所6階 604・605会議室

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>いくの多文化クロッシングフェス2022は、すごくよかった。ザ・生野って濃さがあり、これまでとは違う新しい生野を凝縮した感じがした。今後、生野区の魅力になるだろうとすごく感じた。ロコミでよさが広まり、イメージチェンジとなる、明るい未来を感じた。ああいうエネルギーのある人たちが、まちづくりのキーマンにもなると思った。</p>	<p>令和4年10月30日、御幸森小学校跡地におきまして、様々な国の料理を楽しめる世界の屋台、地元中学生や大学生と地元企業のワークショップ、多国籍なパフォーマンスを楽しめるステージプログラムなど、国籍や年齢を問わず、多様な文化的背景をもつ人々が自由に集い、交流し合える誰もが楽しむことができるお祭り「いくの多文化クロッシングフェス2022」が開催されました。</p> <p>これは、御幸森小学校の跡地活用事業者により、御幸森小学校跡地で多文化共生のまちづくり拠点の構築を通じて、誰もが暮らしやすい全国No.1のグローバルタウンを目指す「いくのコーライズパーク(略称いくのパーク)」のプレオープンイベントとして実施されたものです。</p> <p>当日は、たくさんの来場者が集まり大変な賑わいを見せていました。</p> <p>今後とも、このようなイベントをはじめ、生野区の様々な施策・取組を、生野区の内外にしっかり伝えるとともに、まちづくりの担い手とも協働し、生野区のまちの魅力向上に向けて取り組んでまいります。</p>
<p>教育も大事だが、町にいろんな面白いものがあると、すごく魅力あるものになると思う。      生野区も、空き家を綺麗にして、起業できる人を募集し、そこで起業のために補助すれば、いろんな人が入ってきて、まちの活性化にも繋がると思う。</p>	<p>空き家の利活用については、空家利活用改修補助制度の周知にも努めるとともに、オーナーと空家の活用希望者とのマッチングについては民間事業者と連携し、所有者へアプローチを行い、具体的なニーズに対応しながら空き家の活用を促すなど、様々な手法をもって利活用の促進を進めてまいります。</p>
<p>まちの姿というのがありますが、当事者となる人やエンジンになる人は誰か。誰かが、やらないといけない。</p> <p>この資料の好循環にまわしていくための2分野3分野は重要だが、担い手がどこにいるのか。生野区に全く来てくれないかもしれないという事との戦いに多分なってくる。魅力をどう作っていくのかや、それを担えるプロフェッショナルが必要。その人たちをどう見出すのか、どう組めるのかを考えないといけない。</p> <p>本当にやるための枠組みっていうものがある。それは、このことを本当にやらなければいけない人もやりたくて仕方がない人、それを実現できるような力がある人。それをどう集めるのか。その人たちが、本気になってそのことに対して動き出すっていうことが、このビジョンに備わっているとこのビジョンってすぐ実現するんだろうなという気がする。</p> <p>多文化共生の話では、委員の中に韓国籍の方はいるが、ベトナム籍の人はいない。一番早いのは、そういう人がいるってこと。本当に多文化共生を形にするためのチームづくりには、そういう人たちが必要。具現化するには、本当にやるための枠組みや仕組みが必要。</p> <p>やらなければいけない人、やりたい人、実現できる力のある人をどう集めるのか。</p> <p>その人たちが本気になって動き出すっていうことがこのビジョンに備わっていると、ビジョンはすぐ実現するという気がする。</p>	<p>将来ビジョンで掲げるまちの姿の実現に向けては、行政だけでなく地域住民の方々をはじめ、企業や専門家の方々などさまざまな力が必要となってきます。</p> <p>リノベーションをするには建築家やデザイナー、専門家が必要になり、ワンストップで相談できる専門家チームを作る必要があります。生野区には、いろいろなリノベーションが実際にできており、力のある専門家、建築家・デザイナーがすでに存在しています。</p> <p>こういう方々をネットワークで繋げるとともに、様々な専門家や地域の皆さんのお力もお借りしながら、空き家の掘り起こしに取り組んでまいります。</p> <p>また、空き家でお店をしたい人やものづくりの町工場の方などが「創業」の主体となる方々です。町工場の高い技術力とベンチャーや大学研究者のアイデアをコラボして一緒に新製品を作る拠点づくりを検討してまいります。</p> <p>なお、区政会議の委員の方々から今後も活発な意見交換をしていただくことで、その熱量がまちを動かすエネルギーになりえるものと考えています。</p>

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>グローバルでは、海外の人たちとの交流を深める中で、世界に対抗できる新しい企業が生野から生まれるっていうステップアップのような感じを絵をかくてアプローチしていくことが重要と思った。</p>	<p>グローバルなまちでありものづくりのまちでもある生野にふさわしいような、町工場の高い技術力とベンチャーや大学研究者のアイデアをコラボして一緒に新製品を作る拠点づくりを検討してまいります。</p>
<p>民間企業や事業者が必要とあるが、これは誰なのか。いま生野区にいる人なのか、招き切れるのか？プロフェッショナルと言われる人を入れないと、このビジョンは絵に描いた餅になる。</p>	<p>意欲ある事業者と社会実験でまちの未来を「見える化」していけるようなまちの活性化プロジェクトを進めてまいります。</p>
<p>まちの不動産価値は、人が上げる。地主たちの教育の場を作るのも面白い。誰かが音頭をとって、地主が自分の空き家を布石として人の流動が作れば、その周辺に人が集まるような環境ができ、まちの資産も上がり、不動産価値も上がると思う。</p>	<p>リノベーションをするには建築家やデザイナー、専門家が必要になり、ワンストップで相談できる専門家チームを作る必要があります。生野区には、いろいろなリノベーションが実際にできており、力のある専門家、建築家・デザイナーがすでに存在しています。こういう方々をネットワークで繋げるとともに、様々な専門家や地域の皆さんのお力もお借りしながら、空き家の掘り起こしに取り組んでまいります。</p>
<p>人の流動があるところで、行政がどう広告をするか。行政が何か補助するよりもまちに来てもらうために、生野区の魅力を書いたビラや区の施策を書いたビラを撒くのも面白い。 生野区はどのようなブランディングで行くのか、ダイバーシティをつくれるのこのまちくらいしかないんじゃないかと、多世代・多文化交流が魅力なので、どう見える化して、アプローチするのが大切。</p>	<p>生野区の子どものまちの特色を活かした魅力向上は区役所としても重要な視点・アプローチと考えています。また、そのためには、行政だけでなく地域住民の方々をはじめ、企業や専門家の方々などさまざまな力が必要となります。公民地域それぞれの持つ強みを活かして大きな力となることで、生野区の子どものまちを効果的にプロモーションし、まちのブランディングへとつながっていきます。2025年の大阪関西万博の開催を契機に、地域経済の活性化を区政の柱のひとつとして、まちの魅力とにぎわいの創出に取り組んでまいります。</p>
<p>大阪市も地方と同じような感じになっている。先を見据えて、関わってくれる人たちを増やして、そこから口コミで「このまちが面白い」って広まるといい。やっぱり口コミって強いと思う。 3フェーズ先ぐらの戦略を練ってする必要があるとは思いますが、そういう形で、生野の子どものまちが、魅力ある面白いまちだと思うんで、どう呼んでいくかを考えていくのが面白いので、みんなで考えられたらと思う。</p>	
<p>引っ越した人に「何で引っ越してきたか」を聞いたら、「利便性の割には安かった」と聞く。生野区に住みたい。住み続けた人、生野区で子育てしてくれる人を増やす必要がある。明るいイメージが出てきたら、生野区が良くなる。</p>	
<p>大人たちが面白く、ワクワクしてないと、子どもたちが集まってくれない。面白い魅力的なまちでは、大人たちが何かやったり、チャレンジしている。それを真似する大人がもっと増えていけばいいと思う。教育の基本形は、まねることから始まる。 教育には、教える教育もあれば、協力し合いながら育むって協育や、共に育む共育もあると思う。この三つの教育っていったところを具体化する。協育は、出産を経験した先輩と連携できるような場所で、協力しながら、共に育むまちを作り、そこに子どもたちを巻き込み、大人たちはこうやって作り上げていくんだって背中から学ぶ教育や、教える方の教育も重要になってくる。</p>	